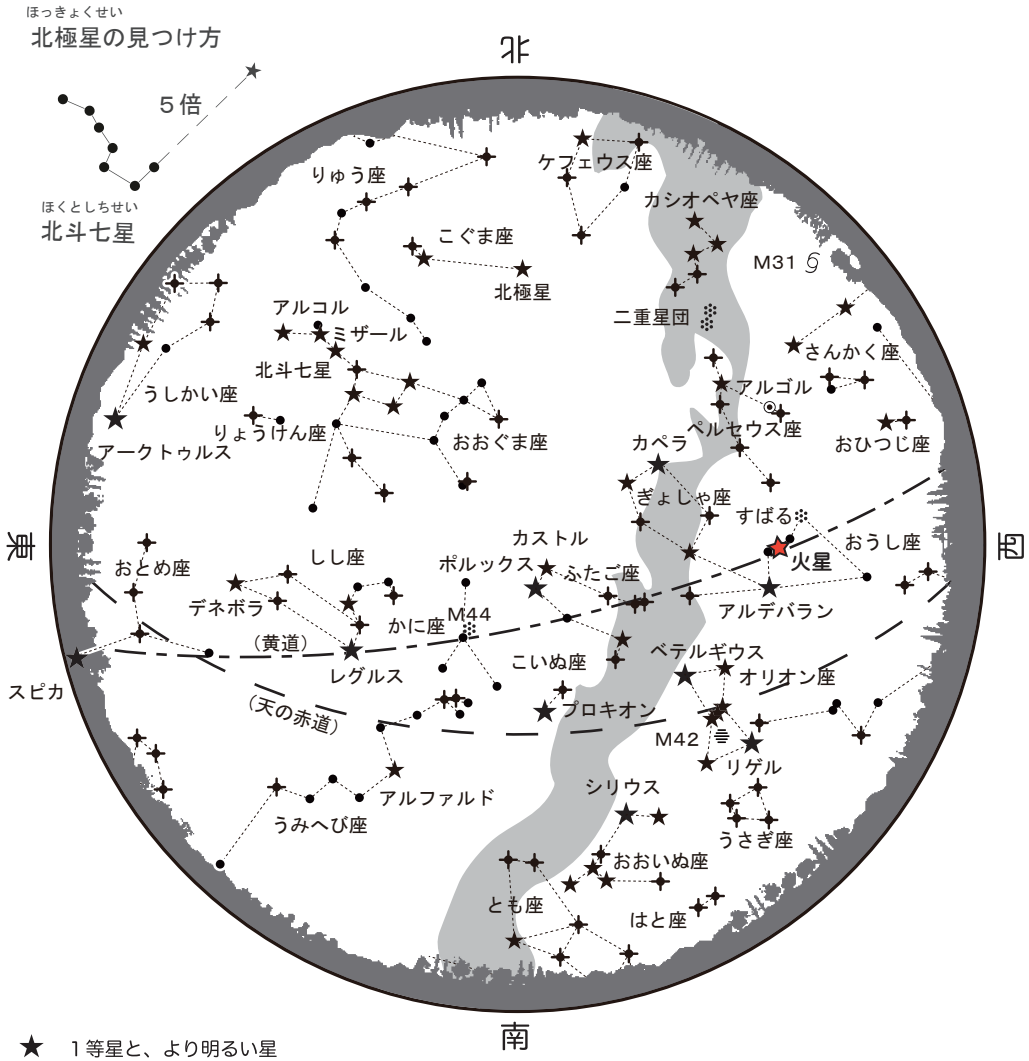
# 富山でみえる 2021年３月の星空

自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見よう。




★　１等星と、より明るい星
★　２等星
✦　３等星
●　４等星と、より暗い星
⊙　変光星
⁘　星団
☰　星雲
𝒢　銀河

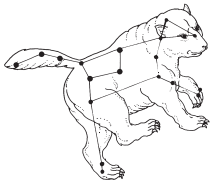
この星空が見えるのは

３月　５日　午後９時ころ
３月２０日　午後８時ころ
４月　５日　午後７時ころ

～月のようす～

３月　６日下弦 ◑
３月１３日新月 ●
３月２１日上弦 ◐
３月２９日満月 ○

## おおぐま座



北極星を探す目印として有名な、ひしゃくの形の「北斗七星」がある星座です。北斗七星は、おおぐまの背中からしっぽの部分になります。ひしゃくの柄の端から2番目の星は、ミザールとアルコルという、目がよい人は肉眼でも分かる二重星です。

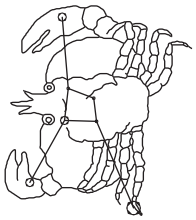
## こぐま座

長いしっぽの先には北極星があり、おおぐま座とは親子のクマと言われています。こぐま座には北極星と同じくらいの明るさの2等星コカブがあり、北斗七星からたどるときは間違えてしまうことがあるので注意しましょう。

## ふたご座

冬の大三角の上で、なかよく並んだ2つの明るい星がふたご座の目印です。やや黄色っぽい色の1等星が弟の星ポルックス、白い色の2等星が兄の星カストルで、色の違いがきれいです。カストルは望遠鏡を使うと白い星が2つ並んで見えます。

## かに座

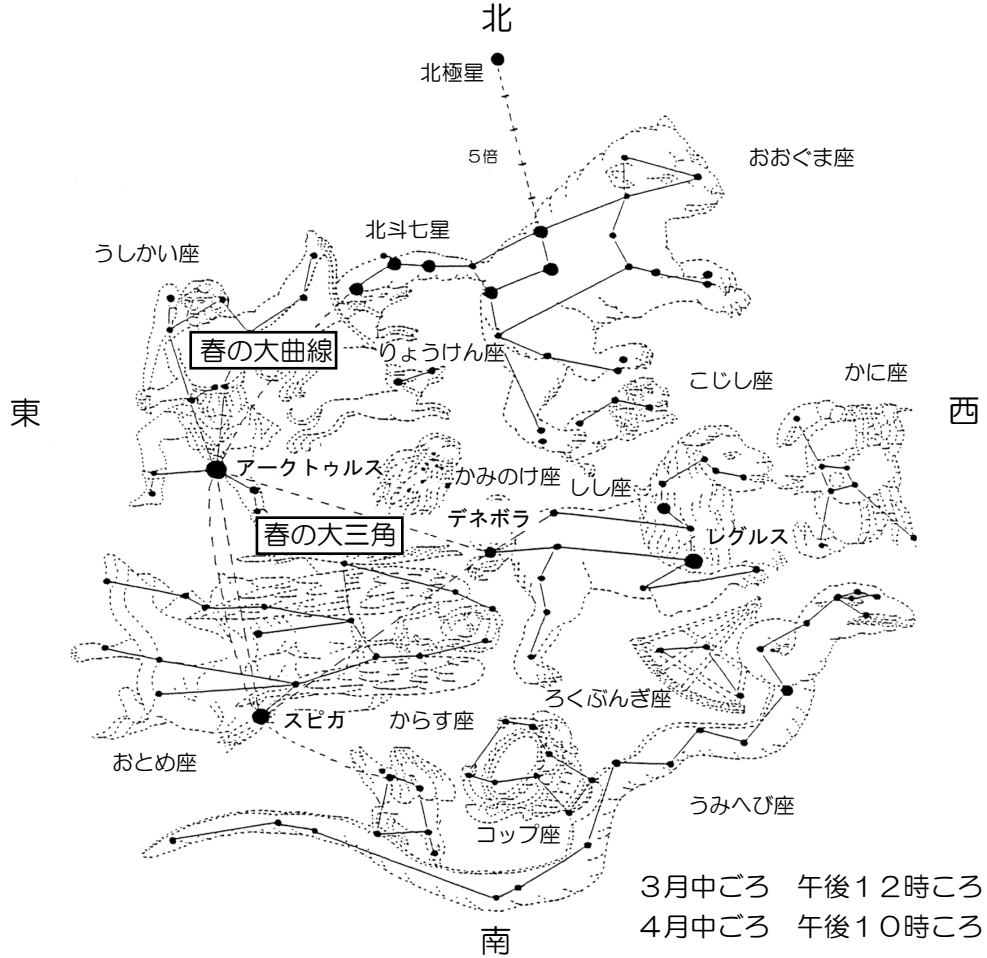


ふたご座としし座の間には明るい星のないところがあり、ここがかに座です。空が暗いところでよく見ると、暗い星が小さな四角を作っています。この四角の中には、プレセペ星団（M44）と呼ばれる星の集まりがあり、肉眼でも見ることができます。

## しし座

「？」マークを左右裏返しにしたような星の並びがしし座の目印で、「ししの大鎌」といいます。この大鎌のいちばん下で白く輝く星が1等星のレグルス、しっぽの星が2等星のデネボラです。今にもジャンプしそうな姿を星空に作ることができます。

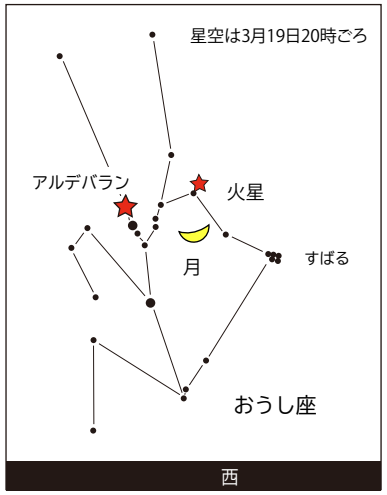
# 春の星座の見つけかた




3月中ごろ　午後１２時ころ
4月中ごろ　午後１０時ころ

1　北の空で、北斗七星を見つけます。
2　北斗七星の柄のカーブを伸ばし、うしかい座のアークトゥルス、おとめ座のスピカ、からす座と続く「春の大曲線」を見つけます。
3　アークトゥルス、スピカ、しし座のデネボラでつくる「春の大三角」を見つけます。
4　しし座の頭から胸にかけての星を結んでできる「？」を、左右裏返しにした星の並びの一番下で輝く星がレグルスです。
5　星座の中でもっとも大きいうみへび座、2番目に大きいおとめ座、3番目に大きいおおぐま座を見つけることができると楽しいですね。

# 火星とアルデバラン




3月中ごろの夕方、西の空では2つの赤っぽい星が並んで見えています。火星と、おうし座のアルデバランです。

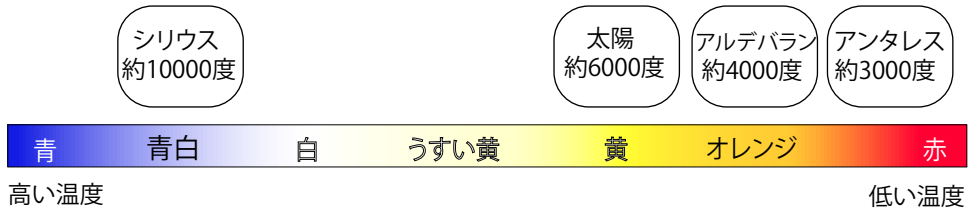
火星は太陽の周りを回る惑星のひとつで、太陽光を反射して輝いています。表面に多く存在するさびた鉄によって赤っぽい色に見えます。それに対してアルデバランは、太陽と同じように自ら光を放って輝く恒星で、表面温度があまり高くないためオレンジ色に見えます。

同じように赤っぽい色に見える星が、実は異なる種類であることを思いながら観察してみるのもおもしろいですね。

# 星の色は　なぜちがうの？

星(恒星)をよく見てみると、いろいろな色の星があることに気づきます。

星の色の違いは、星の表面温度の違いです。温度が高い星は10000度くらいで青白い色に、低い星は赤っぽい色に見えます。恒星で、一番明るいおおいぬ座のシリウスは約10000度で青白く、さそり座のアンタレスは約3000度で赤っぽい色に見えます。ちなみに、私たちにとって最も身近な太陽は、約6000度で、遠い宇宙から見ると黄色っぽく見えます。




こんど夜空を見上げるときには、星の色にも注目して見てくださいね。

富山市科学博物館　電話 076-491-2123　(天文台は臨時休館中) ウエブサイト https://www.tsm.toyama.toyama.jp/